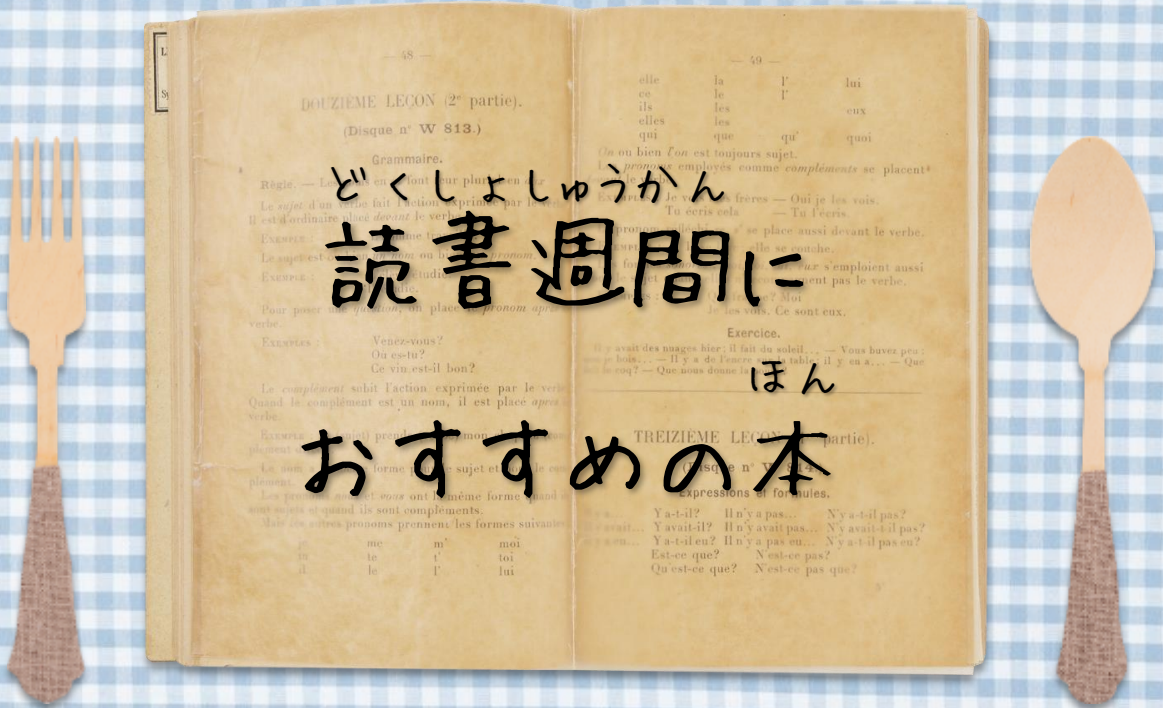


チャイルズタイムス

～みのがせないしんぶん～

2024 年 10 月 No.373

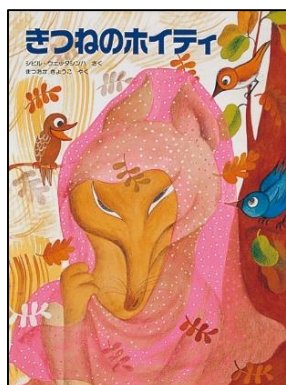


はっこう：さがみおおのとしょかん

でんわ：042-749-2244



4・5・6歳向け



くいしんぼうぎつねのホイティは、たびびとのふりをして食べものをごちそうになることを思いつきます。外にあったせんたくものを身につけて人間になりすまし、村びとの家をたずねました。さて、ホイティはごちそうを食べられるのでしょうか？

えほん E/ウ

『きつねのホイティ』

シビル・ウェッタシンハ／作  
まつおか きょうこ／訳 福音館書店

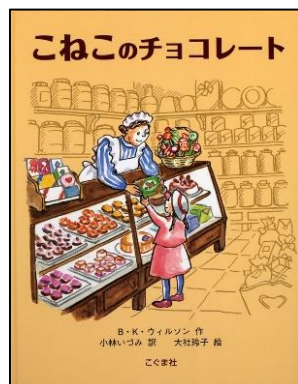


ジェニーは、おとうとのクリストファーのたんじょうびプレゼントに、こねこのチョコレートをかいました。たんじょうびはこんどの水よう日。それまでは引出しにかくしておくことにしました。けれどジェニーは、そのおいしそうなチョコレートが気になって気になって……。

えほん E/お

『こねこのチョコレート』

B・K・ウィルソン／作 大社 玲子／絵  
小林 いづみ／訳 こぐま社



うろおぼえ一家は、かぞくみんながうっかりものです。かいものに出かけても、「ぼくたちはなにをしいくんだっけ？」「なにをかいにいくんだっけ？」と、なかなか思いだせません。出あった人たちにききながら、いろいろなものをかっただけ、本当は何がほしかったのかな？

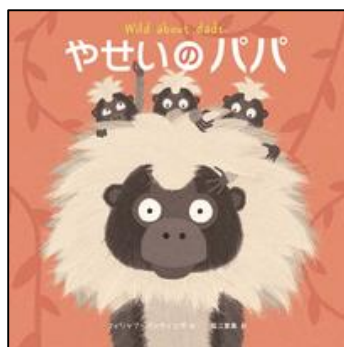


えほん E/で

『うろおぼえ一家のおかいもの』

出口 かずみ／作 理論社



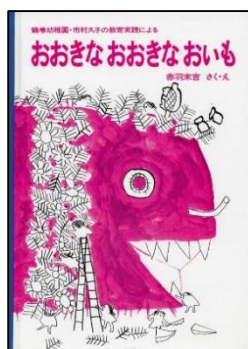


子そだてをするパパは人間<sup>にんげん</sup>だけじゃありません。やせいの生きもの<sup>い</sup>にもすてきなパパがいるんです（中には、ちょっとこまったパパもいそうですが……）。この本では、そんな子そだて上手な<sup>ほん</sup>パパたちをしょうかいしています。ほかに、『やせいのママ』という本もあります。

えほん E／あお／ちしき

『やせいのパパ』

フィリップ・バンティング／作 堀江 里美／訳 化学同人



あおぞらようちえんの子<sup>こ</sup>どもたちは、いもほりえんそくをととても<sup>たの</sup>しみにしていました。けれどその日は雨。いもほりに行けなくなった子どもたちは、みんなでおいもの<sup>ひ あめ</sup>絵をかきはじめます。紙<sup>かみ</sup>をたくさんつなげてかいた、おおきなおおきなおいも。どうやってほる？ ほったらどうする？ そうぞうがどんどんふくらんでいきます。

ものがたり J913／ア

『おおきなおおきなおいも』

鶴巻幼稚園・市村久子の教育実践による』

赤羽 末吉／作・絵 福音館書店



くまのくうは、みんなを<sup>あそ</sup>遊びにさそいますが、ことわられてしまいます。しょんぼりしたくうが、木<sup>き</sup>のえだを引きずって歩いてみると、木の上<sup>うえ</sup>からそれを見ていたお猿<sup>さる</sup>が、何か<sup>なに</sup>を見つけて<sup>よろこ</sup>喜びます。



かみしばい C

『のはらでんしゃ』

武鹿 悦子／脚本 ひろかわ さえこ／絵  
童心社





## 1・2年生向け



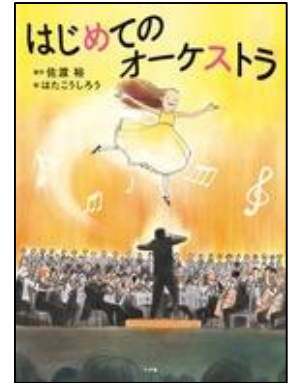
えほん[E/は]

### 『はじめてのオーケストラ』

佐渡 裕／原作 はた こうしろう／絵 小学館

今日は、小学1年生のみーちゃんがはじめてオーケストラをききに行く日です。オーケストラのしきをするのは……みーちゃんのお父さん！

大きい音や小さい音、とがった音ややわらかい音。ぜんしんでコンサートを楽しむみーちゃんといっしょに、絵本で音楽をかんじてみませんか？ 芸術の秋にぴったりの絵本です。



ものがたり[J913/サ]

### 『あしたもオカピ』

斉藤 倫／作 fancomei／絵 偕成社



おきゃくさんがすっかり帰った、夜のどうぶつえん。オカピとしいくいんさんが空を見上げると、よつばのクローバーのはっぱの1まいのような、ふしぎな月がうかんでいました。それは「よつば月」。よつば月の夜は、どうぶつたちのねがい何でもかなうと言われています。オカピはどうぶつえん中のかぎをあけ、どうぶつたちのねがいごとを聞きに行ってみることにしました。

ものがたり[J933/シ]

### 『きえた犬のえ』

マージョリー・W・シャーマット／文

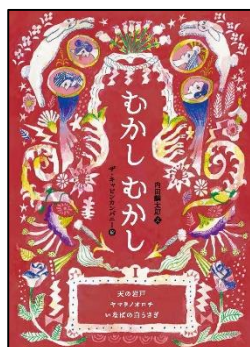
マーク・シーモント／絵 光吉 夏弥／訳 大日本図書

9さいのネートはめいたんてい。いつもはふつうの子どもですが、じけんがおこるとめいたんていにへんしんして、かけつけます。

ある日、友だちのアニーから電話がかかってきました。アニーがかいた犬の絵がなくなったというのです。これはめいたんていの出番！ ネートはそうさを始めます。はたして犬の絵はどこにいったのでしょうか。

「ぼくはめいたんてい」シリーズ1作目です。





ものがたり J918

『むかしむかし 天の岩戸／ヤマタノオロチ／いなばの白うさぎ』

内田 麟太郎／文 ザ・キャビンカンパニー／絵 文溪堂

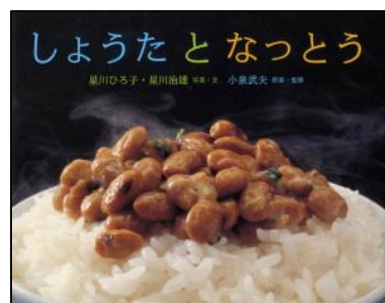
ずっとむかし、日本を作った神さまたちのお話が、読みやすい文で書かれた本です。どのお話もはくりよくまんてん！

「むかしむかし」シリーズはぜんぶで５さつあります。ほかの本には「いっすんぼうし」や「かぐやひめ」、「つるのおんがえし」などのむかし話が入っています。どれから読んでも楽しいです。

ちしき J61

『しょうたとなっとう』

星川 ひろ子・星川 治雄／写真・文  
小泉 武夫／原案・監修 ポプラ社



しょうたは小さいころからなっとうが大好き。はじめて食べたとき、手についたネバネバが顔やかみにひろがってきもちわるかったからです。

ある夏のはじめのこと。しょうたはおじいちゃんにさそわれて、畑に青だいずのたねをまきに行きました。たねはそだって、しょうたのすきなえだまめになりました。しょうたは、おいしいえだまめに大まんぞくです。

ところが、秋のおわりから、おどろくべきことが始まります。何が始まるのかは……この本を読んでみてください。だいずのへんしんがおもしろいですよ。



なまけもののたすけの家に、「なんにもせんニン」がやって来て、留守番としておいてくれと言います。気前よくおいてやることにしたのですが、「なんにもせんニン」がどんどん大きくなり、とうとうたすけは家に入れなくなってしまいます。

かみしばい C

『なんにもせんニン』

巖谷 小波／原作 川崎 大治／脚本  
佐藤 わき子／画 童心社





## 3・4年生向け

えほん **E/A**

### 『あきのおわりのてんこうせい』

ジャン・リュック・アングルバル／作 はしづめ ちよこ／訳  
イマジネーション・プラス



もうすぐ冬になる季節。森を散歩していたこぐまは、ひろったぼうしをかぶって、人間のいる学校へやってきました。転校生だと思ったこどもたちは、こぐまとお話したり、いっしょに勉強したり……。

冬眠前のこぐまの、楽しい思い出のひとつです。



いいつけをすぐに忘れるアンドルーシク。ある日、焼きたてのクッキーが、いぬやねこに食べられてはいけないうでみているように言われますが……。

赤いブーツが自慢のエルミンカ。そのブーツをだれかに見せようとしては、おおさわぎを巻き起こします。

そんなかわいらしい二人のお話を集めた1冊。



ものがたり **J933/ク**

### 『けしつぶクッキー』

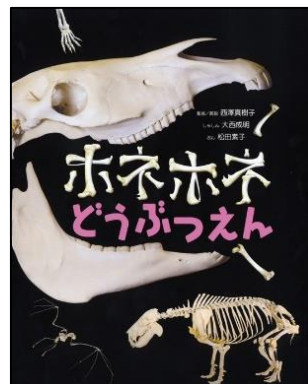
マージェリー・クラーク／作  
モウドとミスカ・ピーターシャム／絵 渡辺 茂男／訳  
童話館出版

ちしき **J481**

### 『ホネホネどうぶつえん』

西澤 真樹子／監修・解説 大西 成明／写真  
松田 素子／文 アリス館

じつは、ゾウの長い鼻には骨がないって、知っていましたか？ この本では、シマウマやゾウ、コウモリ、ゴリラなどいろいろな動物の骨の写真をじっくり見ることができます。ふだんは見えない骨のヒミツを知ると、新しい発見がありますよ。





ものがたり J913/ナ  
『おとな体験授業?』  
なかがわ ちひろ/作 アリス館

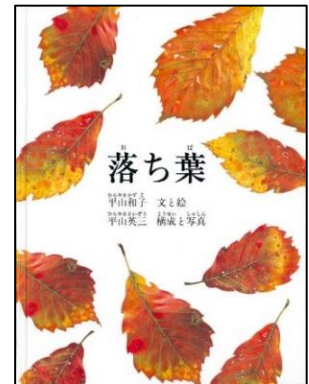
おとなになったら、どんなことをしてみたいですか? 学校の授業で「どんなおとなになりたいか」を紙に書いていく子どもたち。なんとそれは、「おとな体験」ができる特別授業だったので。マンガ家、ラーメン屋、美容師など、それぞれ自分がなりたいおとなを体験できるといった子どもたちですが……。



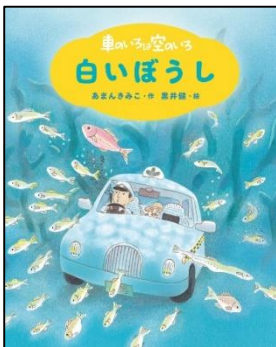
ちしき J65  
『落ち葉』  
平山 和子/文と絵 平山 英三/構成と写真

秋になると、道のあちこちで落ち葉を見かけますね。この本には、落ち葉の絵と写真がたくさんあって、よく見るといろいろな模様や色があることがわかります。虫が食べたあとの落ち葉も、とてもユニークな形をしています。

おもわず落ち葉をひろって観察したくなる1冊です。



ものがたり J913/ア  
『白いぼうし 車のいろは空のいろ』  
あまん きみこ/作 黒井 健/絵  
ポプラ社



空いろの車に乗っている松井さんは、タクシーの運転手です。ある日、松井さんが道に落ちていた白いぼうしをひろくと、中からモンシロチョウがでてきました。そして車へもどると、シートには女の子がすわっていて……。松井さんのまわりでおこる、ちょっとふしぎなお話です。

シリーズは全部で4巻あり、この第1巻では「白いぼうし」のほかに7つのお話が入っています。





## 5・6年生向け



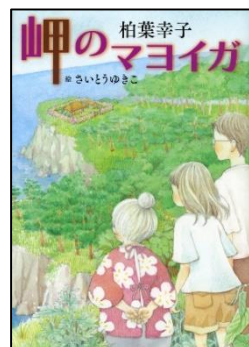
人は殺さぬが高価な美術品はなんとしても手に入れる、  
変装の名人・怪人二十面相。対するは名探偵・明智小五郎。  
さらに少年探偵団も加わって二十面相を追いつめます。  
読者諸君。事件の謎は解けますか？ シリーズ1巻目。

ものがたり J913/エ  
『怪人二十面相』  
江戸川 乱歩/作 ポプラ社



ものがたり J913/カ  
『岬のマヨイガ』  
柏葉 幸子/著  
さいとう ゆきこ/絵 講談社

小学生の萌花は震災の避難所で知り合ったゆりえさん、キワおばあちゃん  
と一緒に暮らすことになります。ある時、餓い猫や餓い犬が次々とけがをする  
事件がおきます。封印されていた悪いものが震災の影響で再び力をもった  
のでしょうか？ 座敷童や河童、狛犬なども登場します。



ものがたり J933/ノ  
『起業家フェリックスは12歳』  
アンドリュー・ノリス/著 千葉 茂樹/訳  
あすなろ書房

お母さんにあげたバースデーカードをきっかけに、フェリックスはビジ  
ネスを思いつきます。そして仲間と始めたビジネスがどんどん成長して  
いき……。

起業や経済のしくみも具体的に書かれています。これを読めば、あなた  
も起業家に!?

ものがたり J933/フ

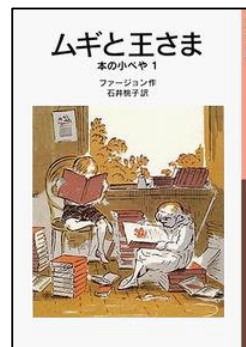
『ムギと王さま 本の小べや1』

ファージョン/作 石井 桃子/訳 岩波書店

表題作の「ムギと王さま」では、ある少年が王さまに向かって、ムギ畑を持っている父親の方が王さまより金持ちだと言います。すると、王さまの怒りを買って、父親のムギ畑は焼き払われてしまうのです。

子どものまっすぐな心と、作者の子どもへの温かいまなざしが伝わってくる短いお話が他に14話入っています。

『天国を出ていく 本の小べや2』もあります。



ちしき J36

『きみを守る「こども基本法」 1

不登校 学校に行きたくないきみへ』

喜多 明人/監修 汐文社



2023年4月に「こども基本法」が施行されました。これをもとに“こども家庭庁”では、子どもが安心して暮らせるしくみづくりを進めています。

この本では「不登校」をテーマに、“ふつう”を気にしなくていいこと、学校や地域にも味方がいることなどを教えてくれています。

シリーズは他に「ヤングケアラー 家族の世話や家事をしているきみへ」「いじめ・虐待 だれかにひどいことをされているきみへ」があります。



ちしき J58

『コーラ イチからつくる』

コーラ 小林/編 中島 陽子/絵  
農文協

コーラは植物の名前だって知っていましたか？ また、飲み物のコーラのはじまりは、漢方薬を勉強していた人が作った強壮薬（元気をだすための薬）だったそうです。

この本には“クラフト・コーラ”の作り方もっています。みなさんもオリジナルのコーラを作ってみては。





あたらしい本  
新しく入った本

たまごをうむために、遠いみなみの海へとたびだつことになったウナギさん。うみのどうぶつたちが、ウナギさんのためにおわかれ会をひらいてくれました。そこにあらわれたのは、にたもの同士（どうし）のどうぶつたち。どうやって見（み）分（わ）けるのかあなたも考（かんが）えてみてくださいね。



かみしばい C

『うみのどうぶつどっちがどっち?』

キム・ファン／脚本 ミヤザ ナツ／絵 童心社



ある日、白くてふさふさした不思議（ふしぎ）ないきものに出（で）会（あ）ったこたろう。こたろうは「しろふさちゃん」と名（な）付（つ）け、迷子（まいご）のしろふさちゃんのおうちを探（さが）すことにしました。まちの人（ひと）からアドバイス（advice）をもらい、夜（よる）の墓（はかば）場（ば）に行（い）ったり、高（たか）いお山（やま）のせん（sen）にんさまに会（あ）いに行（い）ったりしましたが……。

おはなしの最後（さいご）には、しろふさちゃんのおどろき（odorigi）の正（しょうだい）体（たい）がわかりますよ。

えほん E/あ

『まいごでござる』

荒戸 里也子／作 BL 出版

おとな、つごう、はな、ばな、くらしている姉（あね）の陽（はる）架（か）と妹（いもうと）の未（み）怜（れい）。

あることがきっかけで、陽（はる）架（か）は未（み）怜（れい）に会（あ）いに行（い）く決（けつ）心（しん）をします。しかし、3年半（ねんはん）ぶりにやっと会（あ）えた妹（いもうと）の反（はん）応（おう）は期（き）待（たい）していたものとは違（ちが）っていました。姉（あね）妹（いもうと）は再（し）ま（い）心（しん）を通（と）い合（あ）わ（せ）せることができるのでしょうか。

ものがたり J913/ナ

『再会（さいかい）の日に』

中山 聖子／作 岩崎書店



動物（どうぶつ）たちは、たくましい歯（は）や胃（い）袋（ぶくろ）で、かたい果（くだもの）物（ぶつ）や、皮（かわ）がついたま（なま）の生（なま）肉（にく）を食（た）べています。それと比（くら）べて人（にんげん）間（かん）は、火（ひ）を使（つか）って焼（や）いたり煮（に）たりすること（こと）で、そのままでは食（た）べられないものを食（た）べられるようにしました。

人（にんげん）間（かん）という生（い）きもの「食（く）べるこ（こ）の世（せ）界（かい）」を広（ひろ）げていく様（よう）子（す）がていねいにえがかれた1冊（さつ）です。

ちしき J38

『人間（にんげん）は料理（りょうり）をする生（い）きものだ』

森枝 卓士／文・写（し）真（しん） 福音（ふく）館（くわん）書（しや）店（てん）